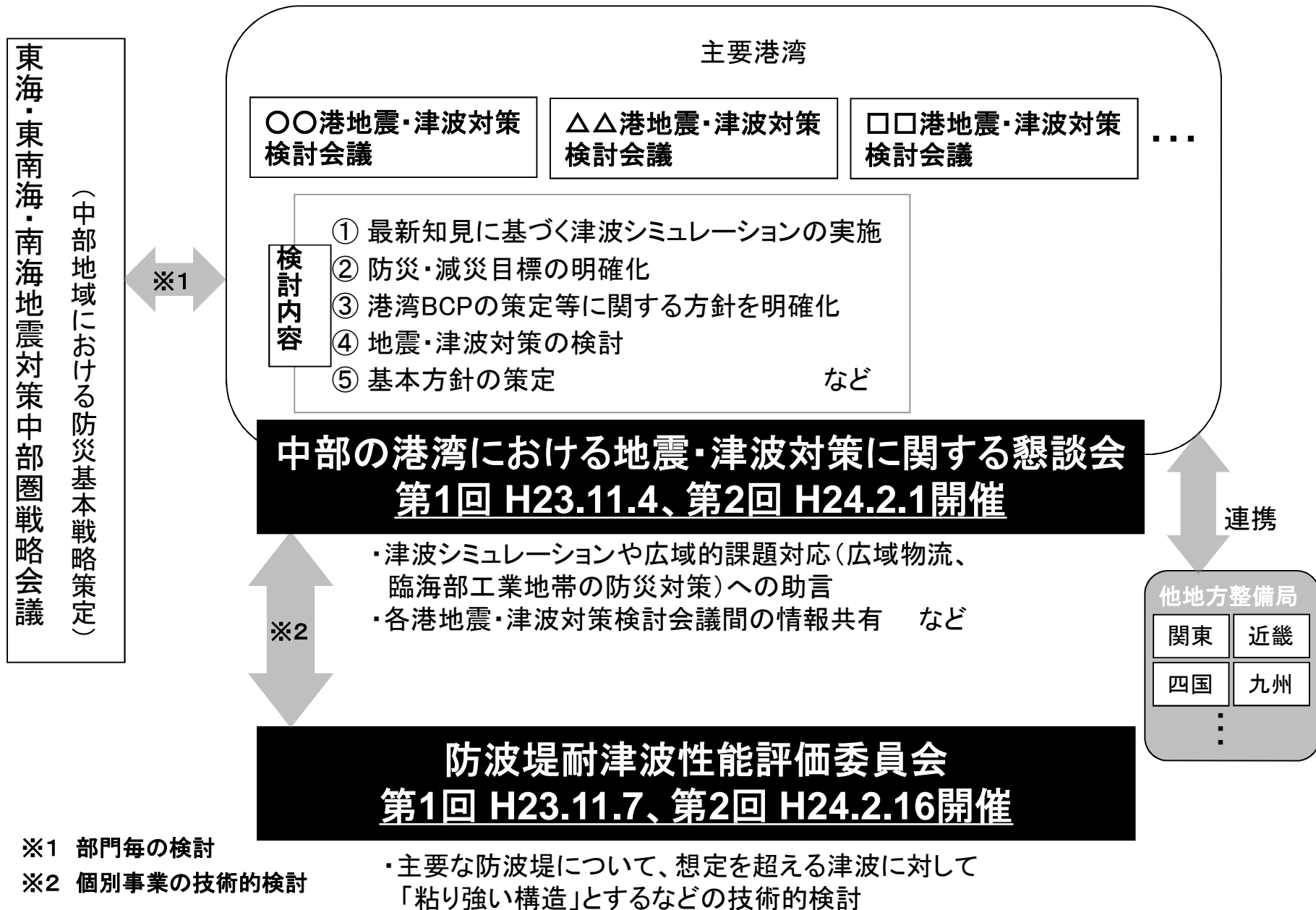


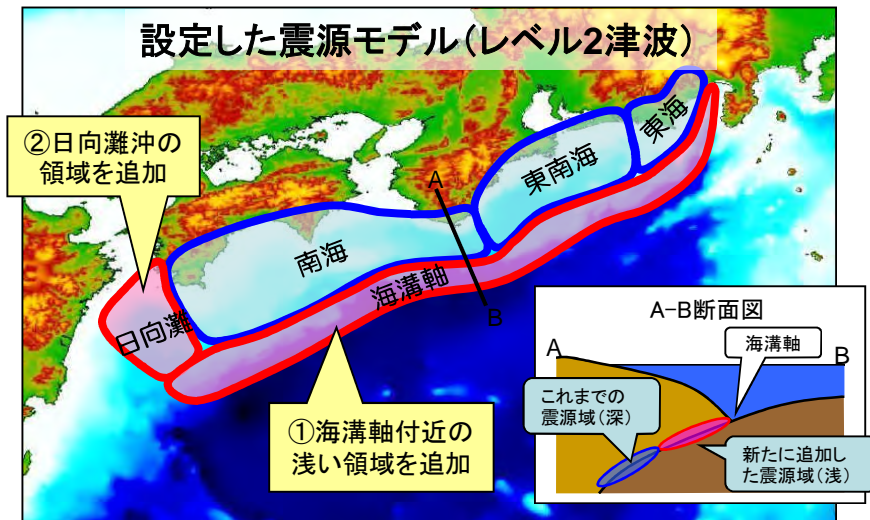
中部の港湾における地震・津波対策検討 体制図(イメージ)



新しく設定した震源モデルの考え方

■津波シミュレーションの位置付けについて

- ・ 東北地方太平洋沖地震を踏まえた新たな南海トラフ震源モデルが中央防災会議で検討されているが、各港湾における津波対策を早急に検討すべく、有識者からの意見を伺いつつ、中部地方整備局にて港湾を中心とした津波シミュレーションを実施するもの。
- ・ 今般算出する津波シミュレーション結果は、今後、**中央防災会議等で正式な結果が公表されるまでの「暫定的に扱う参考値」とする。**



◇新しい震源域の追加

【海溝軸付近の浅い震源域の追加】

東北沖地震では、これまで想定されていた深部の震源域に加え、海溝軸付近の浅い領域が大きく滑ったことにより巨大な津波が引き起こされた。

【日向灘沖の震源域の追加】

地質調査と痕跡調査により、日向灘沖の震源域が、東海・東南海・南海地震と連動する可能性が指摘されている。

【地震のマグニチュード】

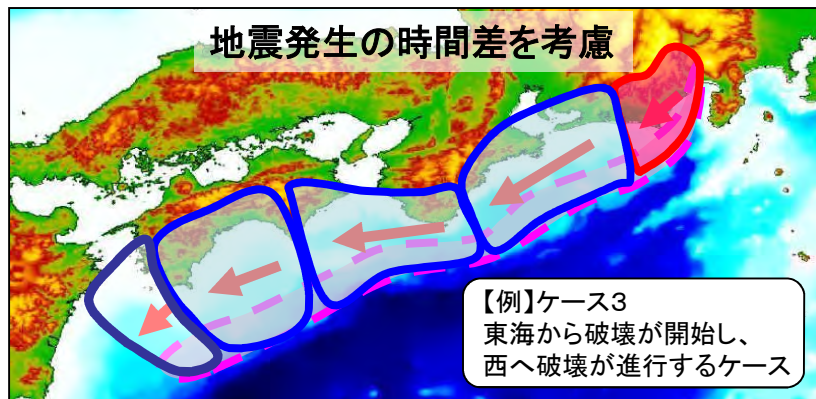
M8.9

◇地震発生の時間差を考慮

想定した5つのセグメントそれぞれが時間差(5分、10分、15分、20分)で破壊し、津波の山が重なりより大きな津波が発生することを考慮。

破壊パターンは以下の5ケース。

- ケース1 : 5つのセグメントが同時破壊
- ケース2 : 海溝軸→陸側4つのセグメントの同時破壊
- ケース3 : 東海から西へ破壊が広がるケース
- ケース4 : 中央から東西へ破壊が広がるケース
- ケース5 : 日向灘から東へ広がるケース



検討対象施設(御前崎港西防波堤)

